



フレイタトウ保育所のお昼寝 ©小林正典

認定NPO法人  
幼い難民を考える会  
CYR CARING FOR YOUNG REFUGEES

2012年6月  
NO.102

# Children, Our Future

## 子どもたちの明日

### 目次

子どもたちは「町の希望」～活動報告会2012～	2～3
【カンボジア・国内】ありがとう「みんなで布チョッキン」! こんな人たちを支援しています	4～5
【カンボジア】卒園生のいま <ヨン・チャンダ>	6
CYRからのお知らせ	7
温故・写真	8

幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめい生きようとする姿に触発され、1980年に設立されました。子どもたちが心身ともに成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を生み出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。



5月26日に開催された活動報告会のテーマは、「安全な子どもの居場所」。被災地で、カンボジアで、緊急時こそ必要な子どもの安全の確保が、後回しにされています。それぞれの地で保育に携わる報告者による厳しい現状と、それを改善するための取り組みをご紹介します。

## 子どもたちは「町の希望」 ～ 福島県富岡町保育の取り組み ～

富岡町立夜の森保育所次長 西山 栄子さん

### いつの間にか避難民に

震災の混乱の中、子どもたちの安全のため富岡から川内村、そして郡山へと避難を繰り返しました。この時点ではまだ、自宅に帰ることができると考えていました。しかし原発事故という最悪の事態を迎え、郡山の避難所でその後4カ月あまりを過ごすことになりました。

情報の伝達は不十分で、国や県から明確な指示がないまま、気付けば私たちは避難民となっていたのです。

### お母さんたちの悲痛な声

4月になり役場の業務が落ち着いた頃、保育所の設置を願いました。しかし「小さい子どもは保護者と一緒だから、親が面倒をみればよい」との回答。慣れない狭い空間で24時間一緒に過ごすことは、親子にとって大きなストレスで

### 富岡町： 福島県沿岸部（浜通り）中央に位置

◆2011年3月11日現在

人口：15,820人

世帯：6,302

保育所：2

定員：230人

産業：主に兼業農家

◆2012年4月末現在

人口：1,240人減

世帯：560減

2011年7月21日、郡山市・三春町・大玉町に保育施設を開設

した。小さな子どもたちの安全も気がかりでした。

このままでは、保護者の求職活動もままなりません。わずかな時間だけでも子どもを預かる場所の設置が急務と考えました。

### 前例のない挑戦

5月になってようやく仮設住宅の建設が始まり、運営方針を決める委員会で、子どもたちの現状や保護者の切実な思い、保育の必要性を懸命に訴えました。しかし「前例がない」と理解を得ることができず、焦りともどかしさでどうにかかなりそうな日々でした。ゼロからのスタートは容易ではありません。しかし、丁寧な説明を繰り返し、同僚の協力を得た2カ月後、仮設住宅内の集会所に保育所の開設が決まりました。

### 子どもたちは「町の希望」

7月、郡山市・三春町・大玉村に保育施設が開所しました。当初は難色を示していた住民の

方たちも今では応援してくれず。仮設での保育に対する評価が出るのはまだ先のことです。しかし、一貫して保育所の開設に賛成してくれた町長や副町長の「子どもたちは町の希望」という言葉を、本当に嬉しく受け止めています。

富岡は今後、「仮の町」をつくらうとしています。そこでは就学前の子ども全員が保育を受けられることができる施設を、幼稚園の先生たちと一緒に要望していきたいと思っています。文科省か厚生省かなどという管轄問題は、子どもたちに関係ありません。未来を託す子どもたちをはぐくむため、保護者に寄り添いながら話し合っていきたいと思っています。

「町に戻りたい」「人との縁が途絶えるのは悲しい」など、原発事故さえなければ、と思わないではありません。「あたり前の一日」の幸せを実感する毎日です。何が本当で、どうすれば良いのか、いまだ情報に翻弄され続けています。しかし明るい話題を見つけて一歩でも前進していきます。



西山 栄子さん

## カンボジアで広がる保育の可能性

CYRがカンボジアで保育支援を始めておよそ20年が経ちますが、いまだに子どもたちは、健康・衛生・教育などの点で厳しい状況にあります。政府は幼児教育の重要性を認識し始めましたが、やはり予算は大変少ないまま。こうした状況を受けCYRは、より多くの、より貧しく、より厳しい環境にある子どもたちに保育の機会を届けるべく事業を行っています。

去年は安価で開設・運営が可能な地域幼稚園2園を開設しました。短時間保育のこの幼稚園は、将来的には地域による自主運営を目指しています。また今年も、プノンペン

のアンドン村という貧しい地域で活動している現地NGO、CCDOを通じて、保育支援を広げていきます。

以下、参加者からの質問にカンボジア事務所長代行のチャン・スレイが答えました。

**Q:** 長年にわたるNGOの保育支援で、カンボジアの教育政策は変化してきたのか

**A:** 教育省は、5歳児1人あたり年間1.5ドルの予算をつけ、公立幼稚園の保育者手当を上げた。しかし3歳児、4歳児教育に対する予算が出る見通しはない

**Q:** 保育支援をしている現地NGO団



チャン・スレイ

体の中から、CCDOを選んだ理由は

**A:** 活動地域を訪問し、早急な支援を必要としていると判断した。また、代表者との間に信頼関係がある

**Q:** 今後も現地NGOと協働した支援を考えているか

**A:** 地元の状況をよく理解していることは大切。CYRの人材で全土を網羅することは難しい。今後も現地の団体と協力していきたい



報告に熱心に耳を傾ける参加者。

## 報告会を終えて

会には、被災地やカンボジアの子どもたちが置かれている状況を憂慮する、およそ50名が足を運んでくださいました。現場からの生の声に心を揺さぶられ、多くを考えさせられました。

一人の強い思いが、子どものための環境をつくり出し、子どもたちと保護者を救った富岡町の例

は、同様の災害に見舞われたときのことを考えるきっかけとなりました。いち公務員として、前例のない保育の形を実現するためには、大きな勇気と実行力が必要だったことでしょう。被災地保育最前線での素晴らしいご活躍に、これからも協力していきます。

福島が抱える問題は大変難しいものです。私たち一人ひとりはそのことを我がこととして捉え、よりよい今後のために何をすべきか考えていきたいと思います。

そうした姿勢の一つとして今年2月、CYRは内閣府の委託事業である「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」の聞き取り調査に対し、以下の問題について意見を述べました。

- ◆ 幼い子どもや母親に支援が届きにくい
- ◆ 仮設住宅で居場所がない子どもたち
- ◆ 後回しにされがちな保育環境の整備

これからも私たちは、少しでもよい社会環境で子どもたちが育っていけるよう、大切なことを伝えていきます。



Duong Saret (ドウオン・サレット、35歳)

夫と子ども4人の6人家族

以前は家の前で商売をしていましたが、うまくいきませんでした。ボール縫製料で、子ども2人を村の学校に行かせることができます。子どもたちには将来、先生になってほしいです。

\* \* \* \* \*

HIVに感染しているサレットさん。健康状態が心配ですが、子どもたちのため一生懸命縫っています。(カンボジア事務所談)



Chan Sarin (チャン・サリン、48歳)

夫と子ども5人の7人家族

食糧を買うお金がない日は、子どもたちが川で捕ってきた魚やカニを食べます。

ボールの縫製料で、3人の子どもを村の小学校に通わせることができます。この子たちには将来、お医者さんや先生になってほしいです。20年ぶりに里帰りしたいのですが、まだ費用がありません。

※ ボールの縫製料は1個1,500リエル(約30円)です ※

## 「布チョッキン」 こんな人たちを

「みんなで布チョッキン」は、カンボジア活動です。日本でチョッキンしたボール1個500円)をそえてカンボジア募金は、縫製労賃・保育者研修費・女性の就労・保育者育成・よりサイクルにも役立つ、一石二鳥の「布チョッキン」がどのよう  
に活動している トロピエンスバイ村

### トロピエンスバイ村とは…



屋外にある台所

プノンペン市内、多くの貧しい人びとが住む。トダンの掘っ立て小屋のような住まいの床は土。棚だけの台所は屋外で吹きさらし。トイレ・水道はなく、雨水をカメに貯めて料理や飲み水に使っている。頻繁に水浴びができない子どもたちは、髪にシラミがわいたり、皮膚病になってしまう。

Seang Hong (スイエン・ホン、77歳)

孫2人との3人家族

娘夫婦が離婚していなくなったので、孫2人をひきとりました。夫は食べるものがなく体調を崩し、病院にかかることができないまま3年前に

亡くなりました。私は腰を骨折して以来長時間歩くことができず、働いていません。家賃(40,000リエル)は、物乞いをして払っています。そんな私を見て年少の孫は、村をまわり廃品を集めて売っています。年長の孫は建築労働をして生活を助けてくれています。



# 「チョッキン」は を支援しています

アの子どもたちに人形やボールを届ける布に募金(人形1体1,000円、ジヤへ送り、現地の女性が仕上げます。・材料費・運搬費に使われるので、りよい保育の支援、ハギレの「五」鳥の活動なのです。うな人たちの支援になるのか、縫製を寸の女性の生活をご紹介します。

ボールの縫製は貴重な収入源です。この労賃で孫の小学校の給食費を払い、お米を買っています。この子には将来、学校の先生になってほしい…。

\*\*\*\*\*

ホンさんは歩くことが辛い日があるようですが、休み休み村の小学校までの道のりを、

ボールの材料を受け取るためにやってきました。縫製はとても丁寧できれいです。(カンボジア事務所談)

## 「みんなで布チョッキン」が雑誌に紹介されました!

雑誌『いきいき』5月号に、「みんなで布チョッキン」が掲載されました。誌上での協力呼びかけに5月31日現在、約100名の方からお問い合わせをいただいています。ボール大142個分、小117個分の布地と募金が、全国から続々と届けられています。

中には、お人形に挑戦するツワモノ協力者も! 支援は「チョッキン」にとどまらず、寄付金や大きな布地の寄贈に



までおよんでいます。今年の届け先は、北西部のバンテアイミエンチエイ州の子どもたち。

「私もやりたい!」という方、ご協力をお願いします。

お申し込みは、電話かメールで (TEL: 03-3943-6971、Eメール: info@cyr.or.jp)

『いきいき』5月号バックナンバー(1冊660円)のお申し込みはいきいきサービスセンター0120-861-094まで(日・祝除く9:00~19:00)。



ご協力いただいたみなさま、  
どうもありがとうございます!  
ございます!

# 働く卒園生のいま

CYR がカンボジアで保育所を開いてもうすぐ20年。  
卒園した子どもたちは、今どうしているのでしょうか？

## ヨン・チャンダ (24)

バンキアン保育所卒園

高校卒業後、中央市場のガードマン、洋服製造工場勤務を経験し、現在アクセサリーを作っている。



### 住環境

プノンペン市内にある職場のリーダーの家の一部屋を、7人の同僚と間借りしている。

### 家族構成

父： 公務員  
母： 専業主婦  
兄弟： 姉2人、弟2人  
弟の一人が、同じ職場で働く

### 性格は？

おとなしくて真面目 (同僚談)

### どんな仕事？

内容：シルバーやプラチナで、女性用の指輪、ブレスレット、イヤリング、ネックレスを作る。

仕事日：月曜日～日曜日

仕事時間：7:00～21:00

(昼休みは20～30分程度。

大量注文のときは、23:00頃まで働く)

月収：\$50～\$80

### 収入の使い道は？

8～9割を両親に仕送り

仕事はつらいことが多いです。  
ギターが好きなので、  
いつかは音楽をやってみたい！



1カ月のトレーニングを受けた後、習いながら業務に携わっている。市場に売りに出かけることもある。



## 書き損じはがき、未使用はがき、切手ご寄付のお願い

CYRでは、書き損じはがき、未使用はがき、未使用切手を集めています。  
カンボジアや被災地への郵送料、会員のみなさまへのお便りに役立てています。

書き損じはがき、未使用はがき・切手のご寄付は、寄付金控除証明書発行の対象となります。  
(はがきの寄付額は郵便局交換手数料を差し引いた額となります。)

大切に活用させていただきます。ぜひ、事務所までお送りください！

※使用済みテレホンカードや使用済み切手は集めておりません。ご了承ください。

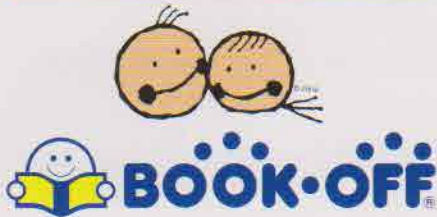


♡ 112,866円 ♡

ご協力ありがとうございます！

2011年12月10日～2012年5月31日のおよそ半年間のご寄付額です。  
ひきつづきご協力を、お願いいたします。

## 本サポ！ はじめました



CYRは4月からブックオフコーポレーション株式会社の協力で、新しい寄付プログラム **本サポ！** をはじめました。ご家庭で不要になった本・CD・DVD・ゲームを売って、その買い取り代金を寄付として、カンボジアと被災地の子どもたち・女性たちのために役立てませんか。

お申し込みは、ホームページ (<http://www.cyr.or.jp/>) 左側のバナーをクリック！お電話やファクスでも受け付けています (TEL: 03-3943-6971 FAX: 03-3943-6973)。どうぞご協力をお願いいたします！

## 横浜高島屋 アジアンスタイルフェア

平成24年 8月29日(水)～9月3日(月)

午前10時～午後8時 ※最終日は午後6時閉場

毎年の百貨店出展ですが、今夏は横浜高島屋が会場です。ぜひご来場ください。

会場：横浜高島屋 8階催事場

# 温故・写真



1980年  
カオイダン  
難民キャンプ

©小林正典

1985年：カオイダン難民キャンプ



2011年：プノンペン、スラムの保育所

【鏡：<sup>1</sup> *monk* (カンチョーク)】身だしなみを整えるために自らを映す鏡は、幼い子どもたちが自身を客観的に見るための、大切な道具です。貧しい難民キャンプでしたが、保育に大きな意味を持つ鏡を要所に設置しました。今でもほら、子どもたちは変わらず鏡をのぞきこんで、真剣に身なりを正しています。そんな子どもたちにとって私たち大人は「鑑」ですか？

## 幼い難民を考える会 (CYR) では会員を募集しています。

会員として総会やイベントに出席し、一緒に活動を支援してください。入会者には、カンボジア手織りシルクマスコット、活動紹介DVDをプレゼントする他、ニュースレター Children, Our Future をお送りします。

CYR直営店「ラタナ」でのお買い物は、全製品が1割引となります。

◆一般会員 10,000円 ◆学生会員 3,000円 ◆団体会員 30,000円



**\* 募金 (カンボジア・被災地支援) のご協力をお願いします！**



お振込みはごさいせいで

【郵便局】  
郵便振替 00110-8-36227  
加入者名 (特活) 幼い難民を考える会

【銀行】  
三菱東京UFJ銀行 六本木支店 (普) 1351747  
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

認定NPO法人  
幼い難民を考える会  
CYR CARING FOR YOUNG REFUGEES